

4 福島の花街と奥州街道

北裡界隈から仙台口を歩く

① 福島稲荷神社

この福島稲荷神社は、平安時代の中ごろ、陰陽師、安倍晴明が建立したといわれ、「狐」を神のお使いとする、伏見稲荷信仰とは全く異なります。

狐代わりの狛犬は、昭和13年に待合や小料理屋が寄贈。台座後方に当時あった待合や小料理屋などの名前を見ることができます。



福島稲荷神社の狛犬

② 稲荷東小路跡

昭和初め頃まで、稲荷神社の西脇にあった小路。ここは大人の社交場として、料理や酒が安いと評判の小料理屋が軒を並べていました。夜になると人が集まり宴や喧嘩、違い引きなどでも混雑していましたが、神様の近くで不徳な行為はけしからんということで、小料理屋は駅方面に移転し、小路を封鎖してしまったのです。



稲荷東小路跡

③ 新開座跡

明治25年に駅前には造られた芝居小屋が移転して、現在のセントラルハイツの場所に新開座というお芝居中心の劇場がありました。歌舞伎役者や舞台役者が興行し、北裡に一層の華を添えました。その後、東映映画館、東映ポウルと変わって現在にいたります。



★新開座

④ 北裡界隈

江戸時代から明治にかけて、奥州街道沿いにあった北南町には旅籠が並んで賑わっていました。旅籠といっても、宿屋だけではなく「飯盛り女」という遊女が抱えられており、遊郭も経営され大人の遊び場として多くの人が訪れていました。

しかし、遊んでばかりでは資金が底をつきますし、病人やケガ人も多く出るようになりました。そのため、旅籠の周囲には物を換金してくれる「質屋」や種々の「病院」が開業されていました。「旅籠」「質屋」「病院」はセットだったのです。



★北裡芸者衆

⑤ 最上位稲荷

縁結びと若返りといえば女性が気になる2大テーマ！その2つにご利益があると評判の稲荷がこちら。花街だったこともあり、界隈で働いていた芸妓や遊女が足しげく通ったようです。

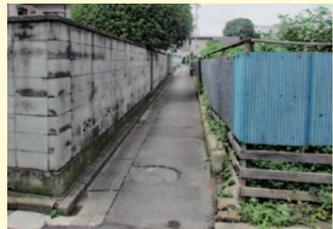
もともとは、昭和3年に岡山から分霊されたもので、北裡花柳界の発展と地区住民の守り神として祀られてきました。今ではご利益のあるお札も作られています。



最上位稲荷

⑥ 北裡の裏路地

表通り（中央通り）から一步入ると車は通れない幅の裏路地が続きます。以前この辺は田園地帯で道が拡張されなかったために、「あぜ道」または「水路」の名残をとどめています。猫たちの通り道にもなっている裏路地を、ゆっくりと歩いてみましょう。



北裡の裏路地

⑦ 馬頭観音

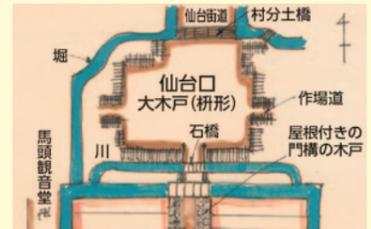
馬頭観音堂は現在の国道4号線のほぼ中央に南を向いてあったのですが、新国道（国道4号線）建設のため昭和37年現在地に移されました。馬喰と言われた馬の仲買商人たちが馬を求めて集まり、馬頭観音堂前の広場で馬のセリ市が開かれたといわれています。



★戦前の馬頭観音

⑧ 仙台口

福島城下の最も北の馬喰町（現在の豊田町）には、仙台口と称された枡形（町の入口を固める広場）があり、木の柵と用水堀に囲まれた広場となっていました。この界隈には馬喰相手の茶屋・旅館が多く、城下町でもたいへん賑やかなエリアでした。



★福島城下七町馬喰町絵図・仙台口(枡形)

⑨ 旧電車通り

信達地方では古くから養蚕が盛んで、富裕層が多かったといわれ、製糸業との結びつきを高めるための交通手段の強化のため軽便鉄道建設が進められたといえます。予定路線が全て完成すれば福島盆地に展開する大軽便鉄道網が完成する壮大な計画でした。



北町明治病院前付近を走るチンチン電車

「どうして北裡じゃなく“北裡”？」

「裡」は「裏」の同音文字で、「内側」といった意味もあります。「成功裡に終わる」などは「裡」の文字。羽織の裏側も「裡」。昔から羽織の「裡」にお金をかけて派手に仕立てるのはオシャレでお金持ちの証でした。

昔の芸者さんは、お客さんの羽織の「裡」を見て裕福かどうかを判断したのだとか。そういうことから、歓楽街の派手な賑わいの象徴でもある「裡」の文字をあえて使ったのです。当て字をして文字に二重の意味を持たせるとは、昔の人は粋ですね。

